

「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子の育成」3つの柱・9項目の評価シート

【 県 北 中 学 校 】

		確かな学力をはぐくむ			心身の健康をはぐくむ			郷土愛をはぐくむ		
		家庭学習の習慣化を図る	保・幼・小・中の学びをつなぐ	国際理解教育の充実	読書の習慣化を図る	「早寝・早起き・朝ご飯」運動 「あいさつ運動」	体力の向上 食育の充実	「ふるさと国見」を学ぶ	子どもと地域の人々とのつながりを深める	子ども同士のつながりを深める
めざす子どもの姿等	達成規準	基本的な学び方がわかり主体的に学ぶ生徒	多様な体験や学習経験を通して、確かな学力を身につけた生徒	国際化に対応できる国際的な感覚を持った生徒	読書を通して、自分を磨き、豊かな人間性を育む生徒	基本的な生活習慣、社会性を身につけた生徒	健やかな体をそなえた生徒	国見のよさを発信できる生徒	地域から愛され地域を愛する生徒	交流活動を通して、自身の成長に気づき、感謝の心が持てる生徒
	達成基準	・学年×1時間+1時間家庭学習を行っている。 ・自ら学び、自分なりの学習スタイルを確立している。	・自ら課題を見つけ主体的に学習ができる。 ・根拠をもとに自分の考えを表現できる。	・自己の目標を持って英語研修に参加できる。 ・英検に積極的にチャレンジする。	・朝読、家読の習慣が身についている。 ・月間4冊（週1冊）の本を読む。	・基本的な生活習慣を身につけている。 ・時と場に応じて適切なあいさつができる。	・運動の楽しさがわかり、進んで体力の向上に取り組んでいる。 ・望ましい食習慣が身についている。	・町の文化財や伝統、産業について理解している。 ・郷土に愛着を持ち、そのよさを他者へ発信できる。	・地域の行事に積極的に参加する。 ・地域の方との交流を通して、共同体意識を持つことができる。	・交流活動で幼児や小学生の世話を進んで行う。 ・自身の成長に気づき、周りの方へ感謝の気持ちを持つ。
具体的な実践手立て		・家庭学習スタンダードの活用 ・定期テスト学習計画の作成 ・二者面談による学習相談 ・学習アンケート ・柏葉ノート（家庭学習の手引き）の活用	・授業スタンダードに基づく授業の改善 ・活用力育成シートの計画的な活用 ・ICTを活用した授業の推進 ・生徒の夢を大切にしたい進路指導	・英会話研修（2年） ・プリティッシュヒルズ英語研修（3年） ・英検の受検奨励と支援 ・英語コーナーの活用	・朝読 ・家読 ・図書室の整備 ・読書フォーラム	・朝食摂取調査 ・生活アンケート調査 ・あいさつ運動（生徒会執行部、規律委員会） ・自己の生き方を考える道徳の授業の推進 ・スマホ利用宣言（9時になったらおやスマホ）の遵守	・運動量を確保した体育の授業の充実 ・部活動の充実 ・食育指導（栄養教諭）	・職場訪問（1年） ・職場体験（2年） ・平泉学習旅行（1年） ・仙台学習旅行（2年） ・関西修学旅行（3年） ・社会科（地域素材）	・柏葉祭 ・義経祭り（1年、吹奏楽部） ・町教育フォーラム ・町防災訓練 ・スポーツ少年団 ・老人介護施設訪問（吹奏楽部）	・幼小中一貫事業「くにみっ子まつり」 ・幼児教育実習（2年） ・新入生オリエンテーション ・サマーショートボランティア
取組の実際	評 定	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 3 ② 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
	子どもの変容	※ <学校評価>の%がない数値は 1あてはまらない 2あまりあてはまらない 3ややあてはまる 4あてはまる の4つの選択肢から選択した平均値（中間値は2.5）  <学校評価> ○家庭学習SDの3つの視点のうち、できることを実践している家庭（70.3%） ○家庭学習SDの学校の4つの取組を実践している教師（82.3%） ○自ら進んで家庭学習に取り組んでいる（保護者2.8） <現職教育アンケート> ○「教科ごとに学習の仕方や予習・復習の仕方がわかっている」と答えた生徒の割合（3年生93%）  ●柏葉ノート「家庭学習の手引き」を有効活用することが課題である。	<学校評価> ○授業SDを活用した授業改善への取組を行っている教師（76.4%） ●考えをわかりやすく伝えることができる（全校生徒2.6） ○わかりやすい授業を行い、よさを認め伸ばそうとしている（職員2.7） ○夢や目標をもち、計画的に学習している（3年生3.4）  ○電子黒板を積極的に活用し、興味・関心を高めている。 ●思考力・判断力・表現力に課題がある。子どもの言葉をさらに引き出したい。	<学校評価> ○英語検定等にチャレンジしている（1年生1.9）、（2年生2.3）、（3年生3.2）  ○学年を追うごとに検定試験にチャレンジし、自己を高めようとしている。 ○英検対策講座への参加など、地域支援の効果が現れている。 ○校内の掲示物が充実し、英語に親しむ雰囲気がある。 ○英会話研修、プリティッシュヒルズ研修に生徒は積極的に取り組んだ。	<学校評価> ●読書の習慣が身に付き、感性を磨いている（保護者2.3）  ○委員会活動による「選書会」や図書だよりによる「新書紹介」などにより、読書に励む機会の設定や環境づくりに工夫を凝らしている。 ●朝自習の時間を学習に当てることが定着しているので、校内で一斉に読書する時間は設定できない。学校評価においても低評価が続いている。	<学校評価> ○早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣が身に付いている（全校生3.2） ○礼儀正しく心のもった挨拶をすることができる（保護者2.9） ●生徒のスマホ所持率（全校生徒62.7%） ●「9時になったらおやスマホ」実施率（保護者50.4%）  ○「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて、授業研究や学年道徳を積極的に実施し、授業力の向上に努めている。	<学校評価> ○部活動に熱心に取り組んでいる（全校生3.6） <朝食調べ> ○朝食を毎日食べる生徒（全校生徒96.4%）  ○給食の時間や家庭科の調理実習の授業を通して「箸の持ち方」について指導し、生徒に新たな気づきが生じ、改善が見られた。 ●肥満傾向の出現率が高く、改善策が見出せないでいる。	<学校評価> ○愛着をもち、地域行事に積極的に参加している（全校生2.8）  ○職場体験、職場訪問について、受け入れ先の方々にお世話になり、働くことの意義を考える機会となった。 ○修学旅行、学習旅行ともに自ら計画を立て、学んだことを壁新聞にまとめたり、プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく発表したりした。 ●旅行先については、活動時間よりも移動時間がかかるような場所は避けるなどの検討が必要である。	<学校評価> ●愛着をもち、地域行事に積極的に参加している（保護者2.8）（職員3.1）  ○町の行事と部活動の関係に配慮し、中学生も参加すべき行事の日は部活動を自粛するなどの配慮をした。 ●職員が思っているほど、生徒や保護者は町行事に参加している実感が少ない。生徒が参加した町行事の広報活動を考えていく。	<学校評価> ○身の回りの方々に思いやりをもって接している（保護者3.2）  ○くにみっ子まつりにおいて、中学生が幼稚園児や小学生に対して、ダンスの指導を行い、飽きさせずに最後まで面倒を見ることができた。 ○「いじめ問題に関する熟議」などを通して、話し合い活動の仕方を理解し、異なった意見をもって人と合意形成を図ろうとする態度が身に付いてきた。
次年度に向けて		・教育目標の「自ら進んで学ぶ生徒」の具現化を目指し、家庭学習と授業の質を高め、両者の関係性を強めた「学びのサイクル」の確立により、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。 ・プリティッシュヒルズ研修を見直し、生徒の英語力をさらに伸ばす取組を検討していく。			・読書の推進に向けて、国語科の教員だけでなく全校体制で読書の機運が高まるような取組を実践していきたい。 ・近隣での事件、不審者の出没があったことから、危険を回避できる力の育成を図りたい。 ・小学校との連携を図りながら、肥満解消、体力（走力）向上に励みたい。			・コミュニティ・スクールの特長を生かし、生徒、保護者及び職員がよさを実感できる取組を見いだしていきたい。 ・各教育活動の目的や目標を見直し、「地域とともにある学校」として生徒の育成にあたりたい。		